

## 梅本首席交渉官ぶら下がり概要

日時：11月1日（水）19：15～19：36

場所：東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾート1階

（梅本首席）

先ほど、30日からやっておりました舞浜での首席交渉官会合が終わりました。作業ということでワーキンググループの専門家たちはまだ色んなところで議論を続けておりますが、全体会合としては先ほど終了しました。

今回も全体会合と、リーガル・法的なワーキンググループ、知的財産、その他の事項についてのワーキンググループの議論が行われました。

法的なところについては、さらに詰めが進んで新しい協定案がかなり詰まってきたと思います。もちろん最終的に政治的に詰めないといけない点がありますので、これはダナンでの閣僚会合に持ち越されることとなりますけれども、事務レベルで出来る詰めの作業というのはかなり進んだという理解をしております。知的財産についても凍結項目、元々のTPPから新しい協定に組み込んでいく最低限の項目について凍結するというので、では何の項目について凍結するかについて議論しております。ここについても議論がさらに進んだと思われま。いくつかの項目についてはコンセンサスが形成されたものがありますし、できるだけルールとしての高い水準を維持するという観点から提案を撤回した国もあります。ある意味で各国ともできるだけ自分の問題意識に応えるような回答を出したいと思いつつ、なんとかまとめる方向で柔軟性を示せないかという姿勢も見えてきたと思います。ここについてもまだ課題が残っておりますので、ダナンに行っても引き続き、首席交渉官会合、閣僚会合というところで、議論を進めていくことになると思います。

その他の事項のワーキンググループについても、皆さん経緯をご存じのとおり、知的財産のワーキンググループに比べると一つ会合分遅く開始していることもありますので、その分だけ作業が、知的財産に比べると遅かったこともあります。今回の会合で11か国すべてから凍結の提案というものが全部出揃って、全体像を見ながら議論するということできておりますので、相当議論が煮詰まっております。いくつかの項目についてはコンセンサスができておりますし、いくつかの項目については議論をした結果、提案をした国がそれを撤回するというような動きが出てきております。このように各国ともダナンでいい結論を出さなくてはならない、着地点を各国とも考えながら行動すると、そういう意味ではダナンに向けた機運が高まっていると思っております。

ある意味で各国とも纏まる可能性があるという認識を持ってきたのではないかと思います。逆に言うと纏まる可能性があるとなると、とれるものはできるだけ取りたいということになりますので、そういった意味ではこれからダナンでの会合まであと1週間しかありませんが相当熾烈な交渉が、対面ではなくても続いていくのではないかと考えております。各国とも今回の結果を持ち帰って、それぞれ本国の関係者と相談をしてダナンに臨むことになるかともいます。ダナンでは閣僚会議が2回行われ、その後ではTPPの首脳会合が行われるということになりましたので、いよいよそこに向けて最終的にこれから議論を続けていって、この機会、この機運を逃さず、何とか良い結果をだしたいという気持ちは各国共通していたと思います。

（記者）

お話をうかがうとこの3日間でかなり前進したという印象を持ったのですけれども、大筋合意の目標はかなり近づいたということでしょうか。

(梅本首席)

遠ざかったことはありません。ただ、こういう経済交渉というものは、WTO等もそうですが、すべてのものが合意されるまではそれまでの合意を積み重ねた合意というものは本当の意味での合意じゃありませんから、これは最後の段階まで予断は許さないと思います。雰囲気としては、相当真剣な雰囲気が出てきたというふうに感じています。今まで真剣じゃなかったということじゃないのですが、これは会議をやっていますとこの雰囲気というのは伝わるものです。ですから、これはかなり各国とも、首席交渉官は閣僚、首脳とかなり緊密に連絡しながらやっていますので、そういう意味ではやはり1週間後に控えた閣僚会合あるいは首脳会合をにらんでこの機会を何とかして生かしたいという気持ち、これはひしひしと感じました。

(記者)

ニュージーランドの対応というのが1つ焦点にもなってくると思うのですが、今日の会合も含めて、ニュージーランドの首席交渉官からどういう話があって、TPPの枠組みに残るという理解でよいのでしょうか。

(梅本首席)

ニュージーランドの首席交渉官は今まで同様に、今回参加をして議論にも参加をしていました。詳しい立場というのは外国の政府のことですから私が申し上げる立場にはありませんけど、ダナンでよい結果を目指すと、まさにそういう目標は共有した上で協議に参加していたと言えると思いました。ですからこれまでのニュージーランドの立場から180度変換するというようなことはなかったと思います。

(記者)

先ほど知的財産とその他のワーキンググループでそれぞれコンセンサスのとれた項目がいくつかあったとおっしゃいました。具体的にいくつくらいの項目なのでしょう。

(梅本首席)

数というものはなかなか一概には言いづらいですね。コンセンサスの見込みは出てきているけど最終的には本国の判断というものもありますし、これは落とす方向で考えてみたいとかですね、結論というのはなかなか首席交渉官会合では出ませんけれども、一定のどちらを向いた方向性かというものを持った上で、本国で諮るというものが出てきたということです。ちょっと数はですね、なかなかこれくらいあったのかとか、これくらいなったと言うのは誤解を招く可能性があるんで差し控えます。

(記者)

今回の首席交渉官会合があってまた6日に行われると思うのですが、次の首席交渉官会合でも今回やったような個別項目の具体的な絞り込みというものが行われるのか、それとも、そこは1週間で熾烈な交渉をされた上で最後の条文の修正というもの行われるのでしょうか。

(梅本首席)

次の首席交渉官会合になるとありとあらゆること、調整が必要なこと全部やるということですから、協定の案文についてもそうでしょうし、まさにそのそれぞれの凍結項目をどうするかということもそうでしょうし、その他にも閣僚として了解しなくてはならないものがあるのかとか、そういったありとあらゆることが俎上に上がると思います。首席交渉

官のレベルでは、できるだけ閣僚会合に行く前にいろんな問題を片付けたいと思っ  
ていますが、やはり各国ともこれは政治レベルでないと判断できない問題というものもあ  
ります。そういうものをできるだけ整理をして限定して、それを閣僚で話し合っ  
てもらうというために、首席交渉官会合がダナンでも行われるということになると思  
います。

(記者)

ここまでの間にアメリカがTPPから離脱したり、Brexitの流れがありますけど、こ  
こで11か国で合意することによって、こういった流れの中で世界に発信したいメッ  
セージというものはあるのでしょうか。

(梅本首席)

ここは総理もたびたびおっしゃっていますけど、TPPを11か国で早期に発効させる  
ということが、アメリカができるだけ早くTPPに戻ってくるということを実現するた  
めの最も有効な道ではないかと考えています。ですから、ここで11か国が早く合意を  
してTPPを発効させることができれば、これはアメリカに対する非常に良いメッセ  
ージにもなります。また、このアジア太平洋、環太平洋で、高い水準のルール、そ  
ういうものに基づいた多角的な自由貿易体制というものが確立するわけですので、  
それも世界に対する大きなメッセージになると思っております。そういう意味では  
協定から得られる現実的、具体的な経済的な効果というものも小さくありません  
けど、さらにそれ以上の、やはり世界の経済のシステムとかですね、アジア太平  
洋の平和と繁栄にとっても、非常に大きな影響を持ちうるものだということで、  
私どもは作業をしています。

(記者)

なかなか得られる効果は小さい中でも・・・

(梅本首席)

小さいと言っているわけじゃないのですけど。

(記者)

アメリカが抜けた中でも今もなお11か国で合意を残り1週間でまとめようとい  
う意識は共有されているのか、またそれに向けてのこの1週間で考えられる障壁  
とは何なのでしょうか。

(梅本首席)

11か国すべてが何とかまとめたいというそういう気持ちで交渉していると思  
います。それはやはりアメリカがない場合に比べると、色々な研究所が経済効果  
分析を出している所もありますけれども、経済的な結果はもちろんアメリカが  
いる時よりはいない時の方が小さいですけど、まず一つはやはりアメリカに  
帰ってきてもらうという意味でも、これはTPP11がある方がない場合に比  
べてそのメッセージが強いですし、世界の中でもすれば保護主義的な傾向とい  
うのもあちこちで見られますので、そういうものに対するアジア太平洋の回  
答としても、この地域ではやはり高い水準のルールに基づく自由貿易体制とい  
うものを発展させていくというメッセージも、これは世界的に非常に重要な  
のではないかと考えています。

(記者)

障壁として考えられるものは何でしょうか。

(梅本首席)

日本もTPPについて国民的な合意を得て、国会の承認を得るという過程では色んな批判や心配もありましたが、それを説得し、説明をして、合意を得て国会を通したわけですが、各国は日本とニュージーランド以外はまだ国会の批准をしていませんから、まだそのプロセスが元々残っているわけですから、そこに今度は11か国でTPPを発効させるということを考えると各国どういう風に説明し、国内に説得していくのかということが大きな課題です。したがって、そういったことを念頭に置いたときに、色んな事について、色んな心配があり、色んな希望があると。それは各国によって違いますから、それが、みんなが受け入れられる範囲内で纏めなければなりません。そういったことができないとTPP11に合意できませんので、その各国の問題意識をうまく調整するということが非常に大きな課題でございます。

(記者)

日本は交渉全体を主導し、調整する立場であります国内では農業分野の見直しをするべきだという意見もありますが、その点について、今回議論になったのかということと、議論になった場合には進展がありましたか。

(梅本首席)

具体的にどのような分野につきどのような議論をしたかということについて、具体的には申し上げることはできませんが、前から申し上げているようにルール分野、それから市場アクセス分野、どの分野についても色んな形で色んな議論をしております。その意味では日本の抱えている課題、日本の立場についての各国の理解については深まっていると思います。

(記者)

農業分野についても理解が深まっているということでしょうか。

(梅本首席)

各国とも農業分野やその他の分野で国内に色んな懸念があったり、TPPに対する抵抗感があったりする中で交渉に臨んでいますから、それぞれの国がそれぞれどういう問題があるか、どういう課題があるかということについての相互理解が必要になります。そういう意味では日本の置かれた立場・問題について理解が深まっていると思います。

(記者)

農業分野についても議論しているということでしたが、今回農業分野についても日本側からお話をされていますか。

(梅本首席)

具体的にどういった議論をしたかは答えられませんが、ありとあらゆる分野について議論をしています。議論の内容は分野によってそれぞれ違いますが、この分野は議論しないと、そういったことはございません。

(記者)

凍結項目の中に入っていますか

(梅本首席)

そこまで具体的なことは申し上げることはできません。

(記者)

前回の首席交渉官会合では、凍結項目を大体50位に絞りこんだとおっしゃられておりましたが、何個とは申し上げられないとおっしゃっていましたが、各国取り下げたものがいくつかあるということで、半分くらいになったということでしょうか。取り下げが確定したものはどの位あるのでしょうか。

(梅本首席)

具体的に数は申し上げられません。何故かという、これがこうなるなら、私はこうするよとか、この段階になりますと各国それぞれの国の動向を見ながらここを決めたいと、立場を留保したうえで、色んな方向性を説明しますから、これをスパッとしたものとして数えられない。ただし、絞り込みは進んでいると思います。ただ、その最終決定はやはり各国は全体の流れをみながらとなりますので、いくつ位あったのがいくつになったと申しますと誤解を招きやすいと思います。ですから数については差し控えさせていただきます。実際にどのように数えるかというのが非常に難しいです。

(記者)

ニュージーランドの方から大きな方向転換がなされたということはなかったと思いますが、ISDS条項については、アーダーン首相が引き続き努力をしていくとおっしゃられていますが、今後、ベトナムに向けてISDSのことについて修正の要求が出てくる可能性についてはどの様にお考えですか。

(梅本首席)

ニュージーランド政府がこれからどのように交渉に臨んでくるかについては、私の方から申し上げる立場にありません。しかし、今は会合でのニュージーランドの交渉官は、今までの議論の流れを踏まえ、交渉を進めるにあたっての今までの前提、了解に乗っかって、議論をしてきていると思います。そういう意味で大きな変化はなかったと申し上げております。これから一週間の間に各国とも色んな立場が出てきますから、そこでニュージーランドから何が出てくるか予断はできないということとここでございます。

(記者)

今回の会合で、APECの閣僚会合にあげる議題はありますか。

(梅本首席)

「こちらは全部終わりました、こちらは閣僚にあげます」と、まだそんな風に綺麗には線が引けません。まだまだ閣僚会議まで、何日かありますから、さらに色んな形で議論して、できる限り整理するということになります。おそらくこの問題については閣僚まで行かなくてはうまくいかないのではないかというものについては色々ありますけれども、その中間にあるものもあるし、ほぼ整理がつつつつあるものもあり、その中間にあるものについてはこれから可能な限り整理するというところでございます。